

# 五反田ジャーナル

五反田図書館  
2026年春号

中学生版

## ティーンズボランティア募集集中！



品川区立図書館では、ティーンズ世代の読書活動を支援するため、中学生から大学生世代のティーンズボランティアを募集しています。

本が好きな方、図書館で活動してみたいという方はぜひご応募ください！  
活動の内容は・・・



本のPOPづくり

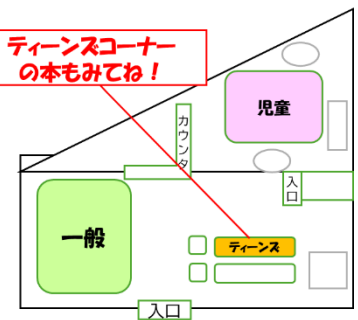
図書の整理

イベントの参加・お手伝い

・・・などです。  
他にも、こんなことやってみたい、ということがあればどんどん提案してください！

ボランティア希望の方は、住所、氏名、生年月日が記載された本人確認書類をもって、図書館にいらしてください。  
ボランティア登録をさせていただきます。

ティーンズコーナーの本もみてね！



## 中学生からはじめよう 新学期におすすめのセレクト

やる気があれば、誰でも成績アップできる！



『30点台からでも1週間で90点取れる中学生の魔法の勉強法』  
Y375/7

うえはらおうせい  
上原央惺／著 エール出版社

『こども六法』の著者による10代のための生き方ガイド



『10代の君に伝えたい 学校で悩むぼくが見つけた未来を切りひらく思考』  
Y159/7

やまさきりょういちろう  
山崎聡一郎／著 朝日新聞出版

ノーベル生理学・医学賞受賞した著者によるメッセージ



『夢中が未来をつくる』  
Y289/7

やまなかしんや  
山中伸弥／著 サンマーク出版



# 春の本だな



自分  
大切なもの

Y913/I

## 『キオクがない！』

いとうみく／作 平沢下戸／画 文研出版



ある日、目覚めると病院のベッドの上にいた。しかし、自分の名前も、家族の顔も、友人のことも全く覚えていない！ 14歳の孝太郎は交通事故に遭い、記憶を失っていたのだ。両親も、弟も、クラスメイトもなにかよそよそしい。記憶を失う前の自分はいったいどんな人間だったのか？記憶は戻らない方がよいのか…。それでも、ひとは何度でもやり直せる、というメッセージが伝わる一冊。

目標  
挑戦

Y913/7

## 『つる子さんからの奨学金』

まはら三桃／作 偕成社



15歳の誕生日を迎える2日前、同学年のいとこの樹の家族とともに曾祖母のつる子に呼び出されたわかば。女子であるがゆえに進学する夢を絶たれたつる子はわかばや樹が進学できるよう、奨学金を出してくれるという。しかし、そこには一つ条件があり…。勉強と部活の両立に取り組み始めるわかばだったが…。

部活  
友情

Y913/ハ

## 『わたしは、跳ぶ！ トランポリン部』

はまのきょうこ／作 ふすい／画 新日本出版社



中学に入った瑠璃花は体育館で、偶然目にしたトランポリン部の演技に目を奪われる。特に運動神経が優れているわけでも、柔軟性もない瑠璃花だったが、部員が少なく、部の存続を願う部長から体験入部に誘われ、入部することに…。しかし、地上では決して体験できないトランポリン独特の感覚に次第に惹かれていく。そして、個性的なメンバーがそれぞれに抱えている悩みにも気づき…。

自分らしさ  
家族

Y913/コ

## 『視線の先のきみと』

こうべはるま／作 くもん出版



東京から転校してきた引っ込み思案のナツはある事情から、できるだけ目立たないように過ごすことを望んでいる。そして、偶然、崖の下にある小さな神社を見つけ、願いをかけると、他人の視線を一時、そらすことができる不思議な能力を手にする。一方、クラスの人気者のアオイも、同様に人の感情が読める能力を手にしていて、力を手にしたふたりはどうなるのか。自分らしさとは何かについて問いかける一冊。

夢  
戦争

Y913/E

## 『ユリの便箋』

もりかわしげみ／作 静山社



大正時代。双子のユリと惺は、女子禁制の美術学校、男子禁制の裁縫学校でそれぞれ図案（デザイン）と服飾を学ぶため、お互いに入れ替わって入学することを思いつく。それぞれに才能を発揮する二人だったが、二人が退学になってしまう事件が起きる。性別による制限が大きかった時代に夢を貫くことの難しさ、戦争という時代の中で、夢をあきらめざるを得なかった人たちの切なさが伝わる一冊。

友情  
やりたいこと

93/ニ

## 『ふたりのマンガ線』

にわの庭野るう／作 フレーベル社



生まれ育った環境も性格も正反対の小6の錬磨と秘。名門中学の受験を目指す錬磨と素直で元気いっぱい秘。ふとしたことから、協力してマンガを描くことになる。受験勉強の合間を縫って、自分のすべてを注ぎ込む錬磨。「やりたいことは一つでなくてもいい」、「反対向きに歩いて行っただとしてもまた会えるかもしれない。地球は丸いんだから」などちりばめられた言葉が心に残る。

